

2019年における世界の食料需給見通しのポイント

- 1 2008年の世界的な金融危機による経済成長の低迷は一時的なものでり、途上国の経済成長は今後とも高い水準で推移すると見込まれている。
- 2 これを前提とすると、人口の増加、所得の向上、バイオ燃料の拡大などから農産物の需要が増大し、今後とも穀物等の需給がひっ迫した状態が継続、食料価格は高い水準で、かつ、上昇傾向で推移する見通しである。

世界食料需給モデルの概要と前年度からの改良点

- 1 「世界食料需給モデル」は、将来にわたる人口増加率や経済成長率について一定の前提を置き、価格を媒介として各品目の需要と供給を世界全体で毎年一致させる「同時方程式体系需給均衡モデル」であり、約5千本の方程式体系から構成されている。
- 2 本年度においては、同モデルについて、昨年度採用した各種パラメータ等について精度を向上させるとともに、バイオ燃料原料用の農産物の需給が世界の食料需給を見通す上で無視することができない要因となっていることを踏まえ、トウモロコシを原料とするバイオエタノールの需給に係る方程式をモデル内に組み込み内生変数化させる改良を行った。

世界の食料需給見通し（予測結果）のポイント

- 1 穀物の消費量は、2019年までの12年間で5億トン増加し26億トンに達する。
小麦及び米は、主に食用需要の伸び、とうもろこしの消費量は、主に飼料用とバイオ燃料原料用の需要の伸びにより増加。
- 2 各品目とも消費の伸びに生産が追いつかず、期末在庫量（率）は低下。
- 3 穀物価格は2007年に比べ名目で31～46%、実質で6～17%上昇。
- 4 穀物貿易の偏在化の傾向は引き続き拡大。
 - ① アジア、アフリカ、中東では消費の伸びに生産が追いつかず、純輸入量が拡大。
 - ② 欧州、南米、オセアニアが純輸出量を拡大させ、純輸入量の拡大に対応。
 - ③ 北米の純輸出量は引き続き減少、純輸入地域の中南米は純輸出地域へ転換。
- 5 肉類の消費量は、年間 1 人当たり消費量の伸びから増加。価格も名目で41～42%、実質で7～12%上昇する見通し。